はじめに

流沿 を る 1岸地或りを管理しています。 と管理しています。 オ 流氷に覆われ、内陸部沿岸地域の冬期は海 朩 別 1 市と ツ は ク 北 滝 千 ha 町 側道 Ē に北 海 玉 所 位東 面 有在置部

な度はが 皮を超えることも珍は最低気温がマイ+ 苗 造 気い 造林地では風雪に耐気象条件は厳しいでい環境となります。 木 が成長し、多くの 期 を迎え オス 20で 珍 耐 て 7 い人えす <

まエたが

域 の

a.D. な ています。 っていくことが 危

まで の 調 查 に お

採跡

地

の

更

新

を

確

れます 造 林化進 外作業の確立がもに及び労力を軽減 求減低 しったス め 5



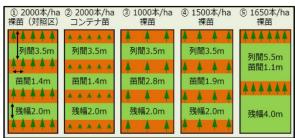
主伐期をむかえたトドマツ人工林

密 度 植 栽 試 験 地 の 取 組

成長について現地調査・デの作業効率及び植栽木のを設定し、植付け・下刈り す や 疎 る 筋 植 的た 5 △試ら タの 植()。 すに、 び省力化を図るため、 験 な 刈りの 施業体 (図⑤)等のプロット 地を設定していまなどした低密度植 (そしょく) (図③) 、苗木の 収 苗間を2倍にした 業の低 を行 系の 残幅を2倍に 植栽本数 確立を |密度植栽||で度植栽||で度が、新||では、| (28年か)||では、| (18年か)||では、| (18年が)||では、| (18年が ってき す

植栽木の成長を調査

響成は長 得向のを らに作多 て、 ① 2000本/ha 裸苗(対照区) にあるというデーff業効率は向上ホー罗く取った方がト 疎 は見られないことについてはま ATA A A A 植 列間3.5m であ A A A A 苗間1.4m つても * * * * いこと、 ↑残幅2.0m フデータが のが下刈り こと、残幅 に大きな影



低密度植栽試験地の概要

すで作展。い業され にしもん森林だより きのせれ さたいと考えての省力化へ取りせることによりれらの取組を継ば

てりりい組造

まん林発

続

しています。 より」で発信しています。 より」で発信しています。 より」で発信しています。

よは組 は情報紙「に、低密度植栽 の調査と併せて発生し続りました。今後も植栽か多く見られることを集しているばには広葉樹が数カ所にとなった。 8な森林づくりに公葉樹の調査を行い しは実た の 情報 XIJ づくりに にしもん 親試験! 課栽 収 り 集を 森つ地 る ſί る所残地 役 林いの す。

が

だ て取 立効し栽を状にし拵